

2030年に向けて

みみはらグループ 新年集会2022

豊かな事業計画を作り上げよう



力強い組織を作りあげてきた自信で「コロナ禍を乗り越えよう」との言葉がありました。

脱炭素をめざす
社会の仕組みを変えよう

力強い組織を作りあげてきた自信で「コロナ禍を乗り越えよう」との言葉がありました。

その後、「同仁会は債務超過を解消し、改めて理念を実現する目標を持つことができるようになる。すべての役員、友の会のみなさんが協力し、豊かな事業計画を作り上げたい」と抱負を語りました。

1月15日、フェニーチェ堺からオンライン配信にて、みみはらグループ新年集会を開催しました。感染の急拡大で、オープニングの吹奏楽は中止せざるを得なくなり、残念な面もありましたが、職員はじめ、友の会、来賓のみなさま、合わせて350人以上が参加し、みみはらグループとして目標を共有する場となりました。



また、「日本では、温暖化対策が『生活の質を脅かす』と考える人が多く、暑さや寒さを我慢すること、電気をこまめに消すなど、暮らしが不便になることとしてとらえている。この意識を変えて、関心を持つ人を増や

るために排出している温室効果ガスが原因で、なかでも二酸化炭素が大きい影響を与えている。二酸化炭素を排出する化石燃料を中心としたエネルギーを使う社会を変えなければ、解決できない問題であり、私たちはどう立ち向かうのか考えよう」と呼びかけられました。

暮らし〜コロナ危機と気候危機を超えて〜」をテーマに講演していただきました。「日本の温暖化問題は大きく、30年に一度といわれる異常気象による災害が頻発し、異常が日常になるといって、まさに異常な状態になっているといわれ、この問題は、日々エネルギーを作るために排出している温室効果ガスが原因で、なかでも二酸化炭素が大きい影響を与えている。二酸化炭素を排出する化石燃料を中心としたエネルギーを使う社会を変えなければ、解決できない問題であり、私たちはどう立ち向かうのか考えよう」と呼びかけられました。

し、脱炭素をめざす社会の仕組みを変えなければならぬ」と訴えられました。

同仁会の穴井専務理事の基調報告は、無料低額診療のラジオCMの紹介から始まりました。「無料低額診療の新規承認数は増加傾向にあり、外国籍の方が多くなっています」と話し、「すべての人の権利が保障される社

すべての人の権利が保障される社会に

会の取組みとして、建築物の断熱性を高めること、企業や自分たちが使う電気は、100%自然エネルギーに転換するという「RE100」宣言、世界のガソリン車販売禁止計画、無農薬・無化学肥料などの脱炭素型農業などが紹介され、世界の動きを知ることができました。また、僧侶が電力会社を設立し、電気料金を寄付して社会貢献していることや、低所得者層を対象とした訪問型省エネアドバイスなどの取り組みから、個人にできることは何かを考える機会となりました。

「会を作りたいたい」と述べました。1950年の耳原実費診療所設立から2018年11月のみみはらグループ運営協議会結成までの経緯と、各構成団体の紹介をし、続いて、「みみはらグループ事業協同組合が設立され、購買、求人、教育などグループとして取り組む」と報告されました。

最後に、「みみはらグループは、急性期医療から助け合い活動まで提供できる、堺・泉州で唯一の複合体グループである。私たちの強みを実感できる運営を強め、一人ひとり、人生に寄り添える組織として2030年に向けた議論をスタートさせよう」と呼びかけられました。

2000年以降、継続して任務を担われている現役の役員・評議員の方へ感謝状の贈呈を行いました

社会医療法人 同仁会

- | | |
|--------|--------|
| 江戸 道子様 | 田崎 貞夫様 |
| 亀田 孝則様 | 大槻 洋子様 |
| 當山 清二様 | 泉谷 賢次様 |
| 磯田 実様 | 石谷 泰三様 |
| 三谷 信夫様 | 佐野 良二様 |

社会福祉法人 ひまわり会

- | | |
|--------|--------|
| 池田美代子様 | 大西 進一様 |
|--------|--------|

